

「指導員活動でのご縁に支えられて」

上江洲 小百合

こんにちは、私は食品衛生協会南支部で指導員をしております上江洲と申します。
浦添市にある食品卸売業で品質管理業務をしております。

入社当時は加工課で製造を担当していましたが、10 年前に品質管理の担当になったのと同時期に食品衛生指導員の講習会へ参加し委託を受け指導員活動を始める事になりました。

当時の私は食品衛生に関する知識もなく、そもそも「品質管理の業務って何？」というところからのスタートでした。

しかし、食品衛生協会主催の衛生管理や食品表示、HACCP 等の講習会へ参加し多くの事を学ばせていただき、また指導員活動を通じて先輩指導員の方々から衛生管理や品質管理の業務に関する事を色々と教えて頂き、自社の衛生管理を試行錯誤しながら改善に取り組んでいく事ができました。

そんな中、HACCP の制度化に向けての取り組みが開始され 2021 年 6 月より全ての食品事業者に HACCP が義務化されました。我が社においても、ISO22000 取得に向けての取り組みがスタートし、2020 年 9 月に取得する事ができ、現在も日々改善に取り組んでいます。

私が今日まで衛生管理に関わり続けてこられたのは、指導員活動を通してご縁頂いた皆様のお陰だと大変感謝しております。「ありがとうございます。」

さて、巡回指導活動では HACCP の衛生管理計画の策定や記録の確認を行っていますが、HACCP が義務化された直後に新型コロナウイルスが蔓延した事と重なり、実際に HACCP に取り組んでいる店舗は少なく HACCP の普及や定着までの壁は厚いと感じています。

指導員活動として巡回指導の他に、毎年 8 月に「食品衛生強化月間」が実施されますが南支部では、南部保健所主催による「食品衛生強化月間キャンペーン」に指導員も参加し、毎年恒例のイベントとして地域の保育園にご協力いただき、園児による演舞を披露してもらい、演舞終了後に手洗いチェッカーを使って、手洗い講習を行っております。

実際に汚れの洗い残しを見ることが出来るので、保育士さんや父兄の方にも大変好評を頂いております。また、今年は保育園からの依頼を受け、指導員 6 名で園へ出向き「手洗い講習」を実施しました。小さい手をブラックライトに照らし、一生懸命手洗いをしては「おちたかな?」と確認に来る子供達の姿はとても愛くるしく、手洗いの重要性を実感すると同時に、もっと正しい手洗いを普及し食中毒、感染症予防につなげていかななくてはという思いに課せられました。

因みに我が社でも新入社員研修で「手洗い講習」を行い手洗いチェッカーを使って、食品衛生協会の「衛生的な手洗い」手順を習得してもらっています。

食品衛生は「手洗いに始まり、手洗いに終わる」と言われています。コロナ禍を得て感染症に対しての危機感が薄れつつある昨今ですが、指導員活動を通して手洗いの重要性も伝えて行きたいと思います。

終わりに、巡回指導をする中で HACCP の普及や活動できる指導員が年々少なくなっている事等、課題が多くあると感じています。巡回を通して今私に出来る事として、記録簿を案内し内容の説明をする程度ですが、全ての食品事業者の皆さんが HACCP を「まずやってみよう」と思える環境が出来ればと思っています。

指導員として、また食品を取り扱う同業者の一人として「食の安全・安心の向上」の為に、微力ながら、これからも指導員活動を頑張りたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。